

平成 28 年度看護連携型ユニフィケーション事業活動報告

島根県立病院とのユニフィケーション

1. 目的

島根県立病院と島根県立大学出雲キャンパスが協働することで、看護の実践・教育・研究が有機的に連携し、看護ケアの質の向上・看護実践教育の質の向上、臨床に根ざした看護共同研究を発展させ、両施設・機関の向上を図る。

2. 内容

1) 学習会・事例検討会

2) 相互交流

(1) 職員（島根県立大学と島根県病院看護局）の看護研修

(2) 現職者の看護教育(演習等)への参画

3) ユニフィケーション研修会の企画・実施

3. 実施状況

1) 学習会・事例検討会は、島根県立中央病院・こころの医療センターとの協働企画とし、病棟単位の月間部署別研修会として計 20 回（県立中央病院 15 回、県立こころの医療センター5 回）を計画・実施および評価を行った。

2) 相互交流

(1) 職員（島根県立大学と島根県病院局）の看護研修では、島根県立大学の看護教員 2 名が県立病院で臨地実習指導のための研修を計画・実施した。

(2) 看護現職者の看護教育への参画は、4 領域(基礎・成人・小児・母性看護学) 5 科目で演習への参画を計画・実施および評価を行った。

3) ユニフィケーション研修会の企画・実施

(1) 平成 29 年 2 月 4 日(土)13:00～16:00

テーマ「“チーム・ミーティング” 体験研修」 参加者：30 名

4. 成果

学習会・事例検討会は定着すると共に、ユニフィケーション研修会は臨床と教育現場で共通する課題として挙げた「カンファレンスや会議の活性化」を意図して「チームミーティング」を体験的に学習する研修会を企画した。いずれも参加者の満足度は高かった。ユニフィケーションという認識が拡がりつつある。

5. 課題

部署別研修では平日夕方、短時間での単発開催の研修が多く、内容の深化に制約がある。医療施設や部署の壁を越えた横断的なテーマを設定し、連続開催等の工夫をしていく必要がある。